

# MEDIA INFORMATION



2008 AUTOBACS SUPER GT ROUND 6

## Pokka 1000km 37TH INTERNATIONAL POKKA 1000KM 鈴鹿サーキット国際レーシングコース 1周 5.807km

8.23 SuperLap Race  
sat 24 sun  
SUZUKA CIRCUIT

- 大会名称：2008 AUTOBACS SUPER GT Round 6 第37回 インターナショナル ポッカ1000km
- 併催レース：2008年 西日本F4選手権シリーズ 第5戦 / Netz Cup Vitz Race 2008 関西シリーズ 第3戦
- 主催：鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC) / 株式会社モビリティランド
- 冠協賛：株式会社ポッカコーポレーション
- 公認：国際自動車連盟(FIA) / 社団法人日本自動車連盟(JAF)
- 認定：GTアソシエーション

### 伝説の名車GT-Rが5年ぶりに復活! 真夏の鈴鹿、伝統の一戦ポッカ1000kmを制するか!? NSX、SC430と対決に注目!!

今年のSUPER GTシリーズは、5年ぶりにレースシーンに復活したニッサンGT-Rの話題とともにスタートした。歴史と伝統が息づく「ポッカ1000km」が始まったのが1966年(当時は「鈴鹿1000km」)。GT-Rが衝撃的なデビューを飾ったのはその2年前の64年のことだった。鈴鹿サーキットで行われた第2回日本グランプリレース。当時世界最速と言われたスポーツカー、ポルシェ904GTSを、スカイラインGT-Bが抜き去ったのだ。一瞬のことだったが、サーキットを埋め尽くした大観衆は総立ちになって快挙を称えた。その後GT-Rの称号を与えられた名車は国内レースで数々の記録を打ち立て、1994年から始まったSUPER GTシリーズ(当時は全日本GT選手権)でも、03年までの10年間で実に5度のシリーズチャンピオンを獲得したほどだった。



ニッサン GT-R

ニッサンフェアレディZの出現で一度は姿を消した名車が、「ニッサンGT-R」として復活したのが今年、03年以来5年ぶりのことだった。そして国内外のモータースポーツシーンにその名を刻み続けてきた名車の血統は新しいGT-Rにもしっかりと受け継がれていた。開幕戦となった鈴鹿ラウンドで本山哲/B・トレルイエ組が優勝、M・クルム/柳田真孝組がこれに続き、GT-Rがいきなり1-2フィニッシュを飾ったのだ。続く第2戦でも本山組が2連勝。松田次生組がこれに続き、またも1-2フィニッシュ。第3戦こそSC430の立川祐路/R・ライアン組が優勝したが、第4戦はまたもGT-RのJP・デ・オリベイラ/荒聖治組が優勝。



Honda NSX

4戦してGT-R勢が3勝と、まさに敵なしの強さを見せているのだ。

そのGT-Rが伝統の一戦、これまで数々の名勝負を生み出した「ポッカ1000km」に参戦するのだ。SUPER GTは通常300kmのレース距離で争われる。それが3倍以上も走らなければならない。すでに「ポッカ1000km」で結果を残しているNSX勢、SC430勢に対してGT-Rは初めて経験するレース距離となるが、これこそがGT-Rの見せ場なのだ。「羊の皮をかぶった狼」と称された、その血統を見せつけてくれるはずだ。伝統の「ポッカ1000km」はシリーズ中最も注目される一戦となった。



トヨタ レクサスSC430

### 道上龍組NSXがランキングトップ浮上。

### 大接戦のタイトル争いのカギを握るポッカ1000km

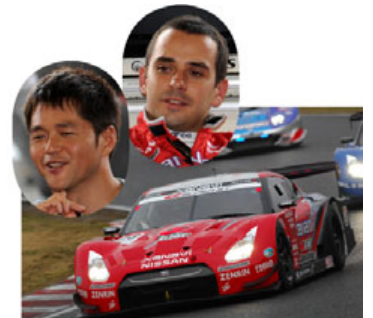


TAKATA童夢NSX、道上龍(上)と小暮卓史(右)

GT-R勢が強さを見せている今年のSUPER GTだが、後半戦に入って状況が変わってきた。NSX勢が反撃開始だ。第5戦で道上龍/小暮卓史組がPP(ポール・ポジション)を獲得すると、金石勝智組、R・ファーマン組と続き、NSXがトップ3独占。決勝も道上龍組が今季初優勝を飾ったのだ。NSX勢はこのままトップ争いに絡んでくるはず。なにしろ現在のGTマシンで争われるようになった99年から昨年までの9年間で、NSXは4勝を記録するほど「ポッカ1000km」で強さを見せているのだ。昨年は脇阪寿一組SC430が優勝しており、NSX、SC430ともにその耐久性に問題は無い。NSXの道上龍組は第3戦、第4戦で連続3位表彰台を獲得しており、合計53ポイントに伸ばし一気にランキングトップに浮上。これを6ポイント差で追うのが第3戦で優勝したSC430の立川祐路/R・ライアン組。開幕戦、第2戦と連勝したGT-R本山哲/B・トレルイエ組は立川組と1ポイント差のランク3位だが、この「ポッカ1000km」で持てる力を発揮できれば、再びランクトップ浮上も十分に可能だ。各陣営ともに勝負をかけてくるのは間違いない。ここで多くのポイントを獲得することは、タイトルを手元へたくり寄せることになるからだ。やはり今年も「ポッカ1000km」がシリーズチャンピオン争いのカギを握ることになった。



ZENTセルモSC430  
立川祐路(左)とR・ライアン(上)



XANAVI NISMO GT-R  
本山哲(左)とB・トレルイエ(上)

## GT500を上回る大接戦のGT300クラス。 やはりポッカ1000kmがシリーズチャンピオンの行方を決める

GT300クラスは今年も大接戦となっている。開幕戦で井入宏之／折目遼組RX-7が優勝すると、第2戦はベテランコンビ新田守男／高木真一組ガライヤが優勝。第3戦は一転してルーキーコンビ平手晃平／国本京佑組MR-Sが優勝。今度はインプレッサの山野哲也／佐々木孝太組が優勝と言った具合だ。シリーズポイントは第5戦で今季2勝目を飾った新田組ガライヤが63ポイントを獲得してトップに立っているが、ランク2位の星野一樹／安田裕信組フェアレディZ、3位の井入組RX-7、4位紫電(高橋一穂／加藤寛規組)以下、6位の山野組インプレッサまで6チームがわずか17ポイント差の中にひしめいているのだ。さらに新たなチームがタイトル争いに加わって、混迷の度を増すのか？それともこの混戦から抜け出すチームが現れるのか！？



井入宏之／折目遼組RX-7

GT300クラスのタイトル争いもやはり、「ポッカ1000km」がカギを握ることになった。



新田守男／高木真一組ガライヤ



山野哲也／佐々木孝太組インプレッサ

## ポッカ1000kmならではの見どころ、 第3ドライバーに注目の大物、新鋭ドライバー続々登場



松浦孝亮

去る7月30日、31日の両日ツインリンクもてぎでSUPER GT公式テストが行われた。これは「ポッカ1000km」、その後続くツインリンクもてぎでの第7戦、「もてぎGT300kmレース」に向けてのものだが、注目されたのは第3ドライバーだった。通常2人のドライバーが交替して戦うが、通常の3倍以上を走る「ポッカ1000km」は3人目のドライバーが認められており、その第3ドライバーの走行も行われたのだ。中でも注目は若手有力選手。今季からフォーミュラ・ニッポンに参戦して活躍している松浦孝亮が井出有治組レイブリックNSXを、同じくフォーミュラ・ニッポンルーキーのR・ストレイが飯田章組のSC430をドライブ。さらには今季ユーロF3で活躍する塚越広大が金石勝智組リアルNSXをドライブした。

「本格的に走ったのは今回が初めてだけど、いいタイムを出すことができた。まだまだタイムは縮められる。1000kmではレギュラードライバーと同等のタイムで走れる自信はあるよ。期待して欲しい」と松浦。塚越も「今回初めてGTマシンをドライブしたけど、だんだんコツがつかめてきて、最後はドライブが楽しくなった。レースのことを考えると、もっと速く走る必要があるし、もっとマシンを知る必要があるが、認めてもら

えるように頑張る」と、大きな手応えを掴んだ様子だった。

他にもGT-R陣営では強豪ベテランのF・カルボーン、D・シュワガーが、SC430陣営では嵯峨宏紀や、現在全日本F3選手権でランクトップを走るC・バンダムが第3ドライバーとしてエントリー。GT300クラスでは紫電に今年GP2やフォーミュラ・ニッポンなど、国内外で活躍している吉本大樹が、井上貴志／ファン・ジュ組ポルシェには2001年のSRS-F(鈴鹿サーキットレーシングスクール・フォーミュラ)を首席で卒業し、フォーミュラドリームで活躍した高崎保浩が第3ドライバーとしてエントリー。また今大会を欠場する平手晃平(ライトニング マックイーン apr MR-S)に代わり、昨年MR-SでSUPER GT GT300クラスに参戦、全日本F3とのダブルタイトルを獲得し、今季は塚越と同じくユーロF3を戦っている大嶋和也がエントリーしてきた。1000kmの戦いの鍵を握る、彼らの活躍にも注目したい。



塚越広大

## 数々の名勝負を生んだポッカ1000km。



## 夜空を彩る大輪の花が激しい戦いを締めくくり、勝者を称える

「ポッカ1000km」は国内で最も古い歴史を持つレースで、これまで数々の名勝負が繰り広げられてきた。第1回大会が開催されたのは1966年で、優勝したのはトヨタ2000GTだった。80年代に入るとプロトタイプ車の戦いが続き、ポルシェ、トヨタ、ニッサンがハイスピードバトルを展開。99年に優勝したのがホンダNSXで、06年からはSUPER GTシリーズの1戦として開催されるようになった。今年も伝統の1戦にふさわしい、歴史の残る戦いとなるのは間違いないだろう。そしてSUPER GTシリーズの中で唯一夜間走行としてヘッドライトを点灯するのが「ポッカ1000km」。サーキットが夕闇に包まれるころに感動のゴールを迎えるのだ。その前にライトオンのサインボードが出され、全車一斉にヘッドライトを点灯。その光がサーキットを駆け抜ける様は幻想的ですらある。そしてゴール後に打ち上げられるのが勝者を称え、全てのドライバー、チームの健闘を称える花火だ。大輪の花が次々と鈴鹿サーキットの空に打ち上げられ、熱く長く、そして激しかった戦いの終わりを告げてくれる。



夕闇の中、ライトを点けたGTマシンが競う

ゴール後には花火が打上げられる

## “クルマのお祭り”ポッカ1000km、イベントで盛り上がろう！

### 土曜日の夜はポッカ1000km前夜祭で盛り上がろう！



土曜の予選終了後は、メインストレートを舞台に今年も前夜祭を開催！  
ドライバートークショーなどのステージイベントに加え、今年のニュルブルクリンク24時間レース出場車「スバル インプレッサ WRX STI」のデモ走行など、イベント盛りだくさんの内容で開催します。

- 日時:8月23日(土) 18:00～(キッズピットウォーク終了後)
- 会場:国際レーシングコース グランドスタンド前特設ステージ/  
国際レーシングコース東コース



#### ★前夜祭イベント

##### ■ドライバートークショー

参加選手(予定):横溝直輝 松田次生 道上龍 脇阪寿一 片岡龍也 井出有治(以上、GT500クラス参加ドライバー)  
山野哲也 佐々木孝太 大嶋和也 国本京佑 坂本雄也 井入宏之 折目遼(以上、GT300クラス参加ドライバー)

##### ■ニュルブルクリンク24時間レース出場車「スバル インプレッサ WRX STI」(チーム「SUBARU NBR CHALLENGE」)のデモ走行

##### ■「GT-Rカスタマイズストリート」展示車両のデモ走行

##### ■ドラッグカー(トップフェュエルカー)のデモ走行

エンジンは総排気量8200cc のV8エンジン、スーパーチャージャー付きで、最大出力 6000馬力オーバー！

(チーム:アートガレージ、ドライバー:富田直位)

地上を4つのタイヤで走る乗り物の中でも最速を誇る超弩級マシンの豪快な走行を体感！

★その他、イベント多数開催予定！詳細はホームページでご案内してまいります。

### 全国のトップチューナーが仕上げたR35GT-Rがグランプリスクエアに集結！ 「GT-Rカスタマイズストリート」開催！

今年開幕戦となった鈴鹿GT300レースで鮮烈なデビューウインを飾ったGT-R。その市販車を全国の有名チューナーがカスタマイズしたマシンをOPTION編集部が厳選し、選び抜かれた注目車が鈴鹿に集結する。それぞれがチューナーの明確なポリシーのもと、鍛え上げられたマシンは必見だ！

■日時:8月23日(土)・24日(日)

■場所:グランプリスクエア

■協力:OPTION

なお展示車両によるデモ走行も行われる。選び抜かれたカスタマイズカーが走行する姿は必見！

■日時:8月23日(土)前夜祭/24日(日)ピットウォーク時に開催

■場所:国際レーシングコース東コース



※イメージ

### 大好評のキッズウォーク開催！

ピットウォークは混雑していて子供と一緒に心配という家族連れに朗報！

お子様連れの方のみ参加できるGTキッズウォークを予選日のスーパーラップ終了後に開催！

対象は中学生以下の子供と保護者で、キッズウォークへの参加は無料です。

■日時:8月23日(土) スーパーラップ終了後(17:00頃～)

■場所:ピットレーン

※レーススケジュールの都合により時間変更・中止になる場合があります。



### P-WRCチャンピオン新井敏弘がスバルインプレッサ(ラリー仕様車)でデモ走行！

2005年、2007年と2度のP-WRC(プロダクションカー世界ラリー選手権)チャンピオンに輝いた新井敏弘が、インプレッサ WRX STIのラリーマシンとともに鈴鹿サーキットに登場！ファンの前でチャンピオンの走りを披露する。

■日時:8月23日(土) ピットウォーク時に開催

■会場:国際レーシングコース東コース

## 観戦環境向上宣言！

### クールミストでリフレッシュ！クールダウンポイント大幅増設！

「暑いポッカ1000km」を乗り切るために、レーシングコースエリアにクールダウンポイントを大幅増設！耐久レースを楽しむには、さわやかな霧が降り注ぐ「クールミスト」で気分も体もリフレッシュしよう。



アクア・アドベンチャー

コースサイドの数箇所に「クールダウンエリア」(一部は洗面台設置)を、そして思いっきり水をかぶりたい人には、グランプリスクエアに「水浴びコーナー」を設置いたします。また、お子様をお連れのお客様は鈴鹿サーキットの冒険プール「アクア・アドベンチャー」がお勧め！その他、ゆうえんち「モトピア」内でもクールミストや、お子様が水遊びをできるエリアがあるので、是非利用してみよう！

水分を十分取り、クールダウンポイントで体調を整えて、1000kmレースを十分にお楽しみください。

※コースサイドの“クールダウンエリア”には、テント内にテーブル・イス・洗面コーナーをご用意しています。

※アクア・アドベンチャーのご利用には別途料金が必要です。



コースサイドのクールダウンエリア



モトピア内のクールミスト

## ファンシート、応援席でお気に入りのチーム・ドライバーを応援しよう！

### 『脇阪家』応援席(S2席)

寿一選手との記念撮影！+脇阪家限定グッズ！+お食事券とS2指定席がついたお得なチケット！

#### 【脇阪家応援席 特典】

- 脇阪寿一選手と記念撮影！(集合写真)  
※詳細は、チケット送付時に同封いたします
- 脇阪家でのお食事券
- 脇阪家限定オリジナルグッズ

[価格は全て税込]

脇阪家応援席 (観戦券+S2指定席)			
大人	中・高校生	小学生	3歳～未就学児
9,000円	3,100円	2,300円	2,100円

脇阪家応援席 (観戦券+S2指定席) ピットウォーク付	
大人	中・高校生
11,000円	5,100円

※2歳以下のお子様は無料(座席・特典は含まれません)

※ピットウォークをご希望のお子様は、中学生よりピットウォーク券が必要となります。

※限定200席。

#### ■お申込みは...

鈴鹿サーキット 大阪営業所 TEL:06-6366-6401

受付時間：月～金曜 9:30～18:00

※8月20日(水) 15:00までの受付となります。

### TOYOTAファンシート(B1席) Hondaファンシート(B2席) 好評販売中!

オリジナル応援グッズや限定ドライバートークショー(Hondaファンシート)、ドライバーアピランス(TOYOTAファンシート)



など、多彩な特典が付いたファンシートで、お気に入りのチームを応援しよう！



※写真はイメージです

#### ■販売方法

MOBILITY STATION(オンラインショッピングサイト)のみでの販売となります。詳しくはホームページをご覧ください。

#### ■ファンシート対象チケット

- 前売観戦券(大人/ペア/中高生)
- 前売ファミ得チケット(追加券含む)
- 前売A・C・Eエリア指定席付き観戦券

※各チケットの詳細はチケットページを参照ください

★ADVANファンシート、SUBARUファンシート、カースレーシング応援席は販売終了いたしました。

## チケット好評販売中！

★VIPスイート・プレミアム/VIPテラス・プレミアム/パドックパスAは完売いたしました。

[価格は全て税込]

前売観戦券			当日観戦券			
大人 (パスポート付)	ペア(大人2名) (パスポート付)	中高生 (入園のみ)		大人	中高生	
5,000円	9,000円	1,600円	土曜日	ゆうえんち入園料		
			日曜日	6,000円	ゆうえんち入園料	
前売指定席券 決勝日のみ有効・別途観戦券必要・A・C・Eエリア入場可能			当日指定席券 決勝日のみ有効・別途観戦券必要			
V指定席	S1指定席	S2指定席	V指定席	S1指定席	S2指定席	A・C・Eエリア
5,000円	2,000円	1,500円	5,500円	2,500円	2,000円	1,500円
前売ファミ得チケット A・C・Eエリア付き(決勝日のみ有効) パスポート付き(土・日いずれか1日)			ピットウォーク券			
大人2名 + 子供1名(3歳以上高校生以下)	追加券 大人	追加券 子供 (3歳以上高校生以下)		大人(中学生以上)	小学生以下	
13,000円	6,000円	3,000円	土曜日	2,000円	無料	
			日曜日	2,000円		
前売エリア指定席付き観戦券 A・C・Eエリアは決勝日のみ有効 パスポート付き(土・日いずれか1日)			パドックパス(別途観戦券必要)			
大人観戦+A・C・Eエリア		6,000円		大人(中学生以上)	子ども(3歳~小学生)	

※3歳~高校生以下の方の当日券はゆうえんち入園料となります。  
 中学生/1,600円・小学生/800円・3歳~未就学児/600円  
 ※高校生以下の方は、A・C・Eエリアへ無料でご入場いただけます。  
 ※観戦券(一部券種を除く)にセットされているパスポート(レース開催日  
 いずれか1日有効)は「ゆうえんちのりもの乗り放題モトピアパス  
 ポート」となります。  
 ※指定席券は決勝日のみ有効です。  
 ※ペアチケットは前売りのみの発売で、2名セットとなります。  
 ※エリア指定席付観戦券は前売りのみの販売となります。  
 ※V、S1、S2指定席券をお持ちの方は、A・C・Eエリアへの入場がで  
 きます。(混雑時は入場制限させていただく場合があります)  
 ※V、S1、S2指定席をご利用の場合、3歳以上共通料金となります。  
 ※前売指定席券完売の場合、当日指定席券は販売いたしません。  
 お早めにお求めください。

※開催当日現地にて販売となります。前売り販売はございません。  
 ※小学生以下は無料です。  
 ※ピットウォーク時に、脚立のお持込はご遠慮ください。  
 ※グリッドウォーク券の一般発売はいたしません。

※前売パドックパスは完売する場合があります。お早めにご購入くだ  
 さい。前売で完売の場合、当日は販売いたしません。  
 ※パドックパスのご購入には観戦券が別途必要です。  
 ※パドックパスAはピット上ホスピタリティブースでも観戦いただ  
 きます。パドックパスBはピット上へのご入場がいただけません。  
 ※パドックパスをご購入いただいたお客様は、A・C・Eエリアで  
 の観戦、激感エリア(日曜日のみ予定)へのご入場、ピットウォーク  
 もお楽しみいただけます。  
 さらに土曜日・日曜日の2日間両方のピットウォークへのご参加、  
 そして土曜日朝の公開車検のご観覧を、お楽しみいただけます。

■ご案内: 大人のお客様は、ゆうえんちモトピアパスポートでは、本レースをご観戦いただけません。

- レース決勝日のゆうえんちモトピアパスポートをお持ちの大人のお客様が、本レースご観戦をご希望の場合は、別途追加料金1,800円にてご観戦いただけます。
- 中・高生のお客様は、ゆうえんち入園料のみで本レースをご観戦いただけます。

鈴鹿、もてぎのチケット・グッズが同時に買える新オンラインショップ  
 詳しくは <http://mls.mobilityland.co.jp/> にアクセス!

MOBILITY STATION

### チケットのお求めは

券種によってお取り扱いのない窓口もございます

■鈴鹿サーキットレースチケットセンター	8月23日(土)まで(販売時間 10:00~17:00)
■MOBILITY STATION <a href="http://mls.mobilityland.co.jp/">http://mls.mobilityland.co.jp/</a>	販売期間延長! 8月22日(金)16:00まで(24時間受付)

※お取り扱いの券種、ご購入条件など、該当のホームページでご確認ください。

8月23日(土)まで販売(一部販売期間が異なる店舗がございます。)

- 電子チケットぴあ ●CN プレイガイド ●ローソンチケット ●イープラス
  - セブン-イレブン ●ローソン ●ファミリーマート ●サークルK・サンクス ●am/pm
- ※コンビニには時間帯に制約があります。※販売店によって、一部取り扱いのない券種があります。

チケットに関するお問い合わせ: 鈴鹿サーキットレースチケットセンター ☎059-378-1111(代)